

感染症

相双地域感染症発生動向調査週報(2025年第21週)

(令和7年5月19日～令和7年5月25日)

令和7年5月29日

定点報告(上段:定点当たり/下段:報告数)、全数報告(報告数)

区分	疾病名	2025年					2024年 合計	2023年 合計
		18週	19週	20週	21週	合計		
定点報告	インフルエンザ	4.33 13	1.67 5	- 0	0.33 1	- 1,214	- 1,616	- 2,660
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	0.67 2	- 0	1.00 3	- 0	- 823	- 3,622	- 2,663
	RSウイルス感染症	3.50 7	- 0	1.50 3	0.50 1	- 75	- 309	- 425
	咽頭結膜熱	- 0	- 0	0.50 1	1.00 2	- 36	- 337	- 129
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	- 0	0.50 1	0.50 1	- 0	- 132	- 657	- 237
	感染性胃腸炎	4.00 8	2.50 5	6.50 13	2.00 4	- 396	- 610	- 988
	水痘	- 0	- 0	- 0	- 0	- 2	- 6	- 1
	手足口病	- 0	- 0	- 0	- 0	- 5	- 952	- 129
	伝染性紅斑	- 0	0.50 1	1.00 2	2.50 5	- 25	- 0	- 8
	突発性発しん	- 0	0.50 1	- 0	- 0	- 35	- 182	- 266
	ヘルパンギーナ	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 19	- 319
	流行性耳下腺炎	- 0	- 0	- 0	- 0	- 8	- 13	- 15
	急性出血性結膜炎	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0
	流行性角結膜炎	- 0	- 0	- 0	- 0	- 1	- 9	- 13
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	- 0	1.00 1	4.00 4	- 0	- 13	- 1	- 3
	クラミジア肺炎	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0
	細菌性髄膜炎	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0
	マイコプラズマ肺炎	- 0	1.00 1	- 0	- 0	- 3	- 16	- 1
	無菌性髄膜炎	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0
	インフルエンザ入院	- 0	- 0	- 0	- 0	- 14	- 19	- 10
新型コロナウイルス感染症(入院)	1.00 1	- 0	- 0	- 0	- 23	- 120	- 19	
急性呼吸器感染症(ARI)	72.00 216	48.00 144	78.00 234	73.33 220	- 1320	- -	- -	
全数報告	つつが虫病	0	0	1	0	1	1	0
	百日咳	2	3	2	5	16	0	0

カラー流行表示は、福島県感染症発生動向調査週報(IDWR)の表示をそのまま表示しています。

定点把握疾患	咽頭結膜熱 と 伝染性紅斑 の流行が見られます。
全数把握疾患	百日咳 5名(学童2名、10代3名) の報告がありました。

インフルエンザ	相双地域は前週と比較して増加しており、県(県内総数)は前週と比較して減少しました。今シーズンで既に罹患した方でも再び感染することがあるため、引き続き体調管理に留意するとともに、手洗いや定期的な換気等、基本的な感染対策をお願いします。
新型コロナウイルス感染症	相双地域及び県(県内総数)ともに前週と比較して減少しました。インフルエンザと同様、体調管理や基本的な感染対策をお願いします。
伝染性紅斑	相双地域は前週と比較して増加しており、県(県内総数)は前週と比較して減少しました。警報は続いています。伝染性紅斑は、ヒトパルボウイルスB19による感染症です。感染経路は飛沫感染や接触感染で、約10日の潜伏期間の後、発しんが両頬から体・手・足に拡がります。予防には手洗いや、マスク着用等の咳対策が必要です。
水痘	全国的に増加傾向が見られます。一般的に「みずぼうそう」として知られ、約2週間の潜伏期間後に全身に小水疱と発熱が生じます。感染経路は飛沫感染、空気感染、接触感染であり、非常に感染力が高い疾患です。小児に限らず大人も感染しますので家庭内の感染に注意し、ワクチン接種の有無を確認しましょう。
百日咳	百日咳(全数報告)については、本県で31名報告がありました。10代以下を中心に、感染地域の拡大傾向が見られます。引き続き感染状況に注意が必要です。百日咳菌によって引き起こされる、激しい咳を伴う病気です。特に乳児では重症化のおそれがあり、早期のワクチン接種を推奨します。乳児のいる家庭では、保護者を含めた家庭内の感染に注意しましょう。感染経路は飛沫感染や接触感染とされており、手洗いやマスクの着用など基本的な感染対策が有効です。
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	劇症型溶血性レンサ球菌感染症(全数報告)については、本県で2名報告がありました。血液、筋肉、肺等に侵入したレンサ球菌が、まれに急激な症状の悪化を来す感染症です。初期症状には、発熱、悪心、四肢の痛み、傷の発赤、腫れが見られます。急速に症状が悪化した際は、直ちに医療機関を受診してください。

(参考・引用) 福島県感染症発生動向調査、感染症週報、2025年第21号